

Harmonix Master Sound LP に寄せられた “お客様の声”



MSA-002

The Boss

中村誠一クインテット+2



中村誠一（テナー・サクソ）

向井滋春（トロンボーン）

田村博（ピアノ）

福井五十雄（ベース）

守新治（ドラムス）

ゲスト(B-1のみ)

大友義雄（アルト・サクソ）

渡辺香津美（ギター）

生氣あふれる演奏。臨場感そのものを封じ込めた音質水準の高さは驚くほどだ

2018年2月 ジョバンニ様

中村誠一は数年前にミニライブで聴いたことがある。愛嬌と威厳をわきまえた好々爺という印象。そしてスタンダード曲を軽く親しげに、そして時折濃い味で吹き込めるという達演に感心したものだ。

このライブ録音は1974年というから43年も前の演奏だ。しかし生氣あふれる演奏であり、臨場感そのものを封じ込めた音質水準の高さは驚くほどだ。ジャケット解説によると、直前に中村誠一がリーダーとなるデビューアルバム、しかもライブのそれが発売されているのでリリースを遠慮していたのだという。とすると、デビュー当時の意気盛んな演奏がここにも収められていることになる。

A面の「オールド・フォックス」と向井滋春の「突風」はまだ20代の中村誠一の新鮮さと風格、向井滋春の精氣あふれる咆哮も素晴らしいが、B面全部を使った「ザ・ボス」が聞き物だ。20歳の渡辺香津美の高い技量のギター、大友義雄の濃い歌心のアルトサクソが加わって聴き手も気を抜けない。

全員20代の若い力と共感能力の高いアンサンブルが素晴らしいのは当然として、録音も絶賛ものだ。まずは各パートの距離間が素晴らしい。定位とか音像とかいう評価語が不要なほど自然体の配置であり、演奏場所の様子が透視出来るのだ。そして楽音とともに奏者の<影>が立ち上る感覚が独特だ。楽器の音が鮮明であっても、そこに奏者の実在感が希薄な録音もあるわけで、再生音場において、こうした奏者と視聴者の共存感覚が味わえる録音は貴重だ。

しかもサクソの濃い音、バックに控えるピアノの小気味いいタッチ、実に巧妙に歌心を支えるドラムスなど、現場の空気を介した上でアンサンブルの推進力が明快だ。アンプを使うギターにしても現場の間接音を伴って官能的な音色を放っている。トロンボーン控えめながらたしかな音圧の放射も生々しい。

無理にエッジを立てず、しかも曖昧さを嫌い、各パートの歌心と存在感が確かな名録音に感嘆を禁じ得ない。

オーディオと音楽マニアにとっては必聴盤ですね！もちろんJAZZフリークの人も！

2017年6月 宮城県塩釜市 Music Bar スティーブ マスター 高橋様

JAZZがJAZZだった頃の名演奏が高音質盤で蘇りました。

オーディオと音楽マニアにとっては必聴盤ですね！

もちろん JAZZ フリークの人でもですけどね。

この解像度は、ハーモニックさんのリマスターの技術とその当時このライブに携わった PA エンジニアに感謝です。

追伸

B 面「THE BOSS」での仙台市出身ドラマー守新治の高速シンバルレガートは凄まじい！

晴天の日ウッドデッキでビールグラスを傾けながら聴きたくなる爽快感である

2018 年 2 月 宮城県仙台市 無帰還大好き様

カートリッジがトレースを始めた瞬間から聴いたことの無いバランスでバンドが吠える。

小さいライブ会場とはまた違う、ある程度の大きさのホールでの録音とはっきりわかる。

ライブ会場のように個々の楽器が浮かび上がるような雰囲気ではなくオフマイクとオンマイクを見事にブレンドしている。

盤質は言うまでもなくノイズは皆無でマスターテープを聴いてるかのようで滑らかでレコードを聴いてるということを忘れて聴きいってしまう。

鮮度の高さとも言っていい録音された年代を全く感じない活きのよさは必聴に値する、グラスの吠えも混濁感がなく煩さも全くない、このレコードで混濁感を感じるならアナログシステムを疑うべきだろう。

晴天の日ウッドデッキでビールグラスを傾けながら聴きたくなる爽快感である。

ライブ会場に行ってみたくなった。

それぞれの楽器の音が生々しくまるでマスターテープをそのまま聴いているかの様です

2018 年 2 月 宮城県柴田郡 DITTON たか様

まず驚いたのは、奏でられる音全体の S/N の良さそして透明感・・・

今までのレコードでは経験したことが無い S/N の良さは唾然としてしまいます、音楽に没頭出来るのがなによりでこのような物を音楽再生機と言うのでしょ。

かつての CD をトランスポートと DAC に外部クロックで同期させて聴いた音とまるで同じ印象です。

それに CD とは違ったアナログらしい D レンジの広さが加わっているため、前後左右の音場や空気感が非常に感じらライブ盤特有の良さを感じ取れます。

それぞれの楽器の音が生々しくまるでマスターテープをそのまま聴いているかの様です。

私の大好きな女性ボーカルの発売が待ち遠しく楽しみにしています。

本当に良い音楽を聴かせて頂きました。

盤面に針が降りた途端ライブ会場にタイムスリップしてしまった

2018 年 2 月 宮城県仙台市 アダージョオーディオ 富川三夫様

一枚目の「So Nice Duke」もそうだったが盤面に針が降りた途端ライブ会場にタイムスリップしてしまった。

Combak のレコードはドラえもん「どこでもドア」と同じく一瞬にして Live や Recording 現場に「ひとつ飛び」出来る便利な円盤だ。

TBM が録音したと記されてるが、いくら調べても発売された記録が見つからなかった未発売なんだろうが、もし未発売なら理由は何なのかとても興味がある。

音質・演奏内容・ライブ感・メンバーと言う事なしなのに不思議でならない。

A-2 での向井(tb)中村(ts)の狂気迫る演奏に聴く側も前のめりで一音も逃せないで聴きいってしまう、勿論バックিংが素晴らしいのでフロントも安心して飛ばせる感じが有りありだ。

B 渡辺(G)の火付け役で全員リリリで演奏し気が付くと片面全部が一曲だった、思わず拍手してしまいそうに……

1974 年に録音して 43 年ぶりに日の目を見せてくれた Combak の意気込みに感謝し、音楽センスの良い会社方針にも脱帽です。

噂ではマスターテープが倉庫で唸ってるらしい、カビが生える前に早く「良い音楽を良い音で」聴かせて欲しいと心よりお願いしたいです。

昔の BLUE NOTE や Prestige などのオリジナル盤と言われる物も持っているが Combak のオリジナル盤とはまた違う音楽で、私は音場表現に重きを置いてのオーディオシステムチューニングをしているので後者の音楽表現が好きだ。

オーディオが好きで音楽も楽しめる方なら Combak のオリジナルレコードを購入して聴いてみるべきだ、昔の技術に固視するのも良いが技術は進歩している事が分かる。

次作は何なんだろう待ち遠しい。